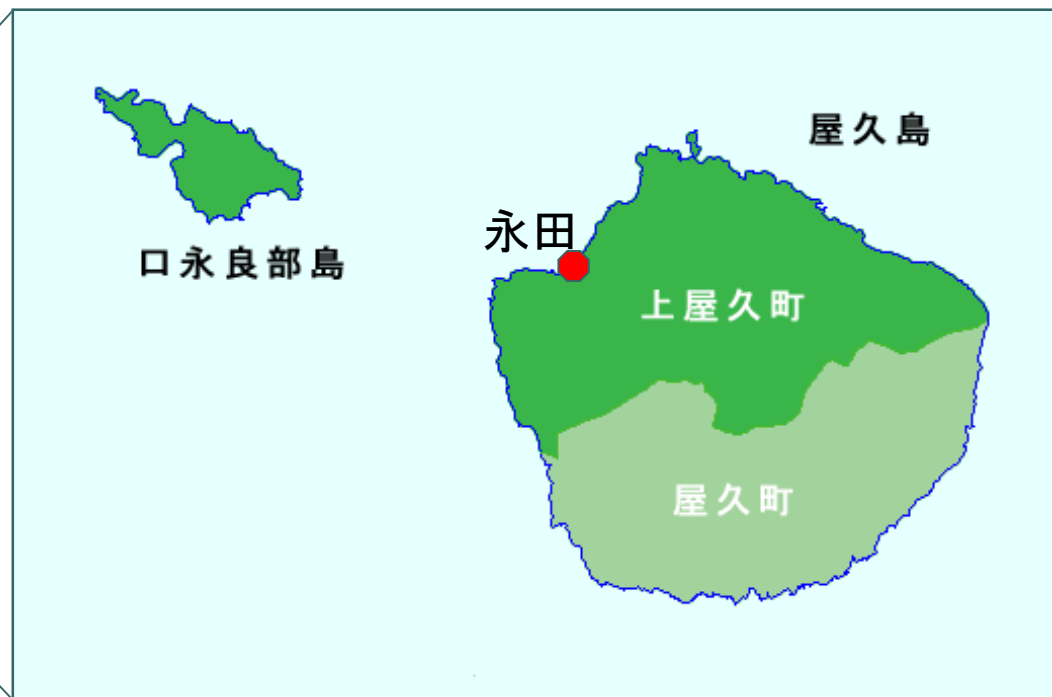


鹿児島県熊毛郡
永田へき地出張診療所
口永良部へき地出張診療所

新畑博英
(鹿児島県出身 22期卒)



屋久島・口永良部島の位置



屋久島の周囲: 132km

面積: 504 km² 全国で9番目の大きさ

上屋久町: 人口 6790 名 (平成19年5月)

屋久町 : 人口 6900 名 (平成17年)

両町は平成19年10月1日合併し屋久島町となる事が決定している。

屋久島永田地区

屋久島の北西に位置し、ポンカン、タンカン等の果樹栽培に従事する割合が高い。

人口 570人（平成18年8月31日）

15歳未満 68人（11.9%）

15～64歳 293人（51.4%）

65歳～ 209人（36.6%）

【公的機関】

永田診療所

永田小学校（複式学級）・永田中学校

永田交番

永田郵便局

など



2005年 ラムサール条約^注に登録された永田いなか浜
（注：1971年に制定された国際的に重要な湿地に関する国際条約）

口永良部島(くちえらぶじま)

鹿児島県熊毛郡上屋久町口永良部島

人口 157名

15歳未満 17人(10.8%)

15～64歳 82人(52.2%)

65歳～ 58人(36.9%)

産業:漁業、農業等

鹿児島県本土から直接口永良部島に
渡る定期ルートはなく、離島の離島状態

薩南火山郡島最大の火山島

サービス提供の担い手が不足しており、
介護サービスが不十分

平成19年3月30日 霧島屋久国立公園に編入



海上タクシーの舳先から口永良部島を望む



港から見える口永良部島のメインストリート

屋久島・口永良部島へのアクセス



町営船フェリー太陽
(屋久島⇄口永良部島)



ジェットfoil(高速船)
鹿児島市へ



鹿児島空港(霧島市)へ
(往復6便)



口永良部島

永田

屋久島

宮之浦港

上屋久町

屋久島空港

安房港

屋久町



口永良部島⇄屋久島(宮之浦港)
フェリー太陽 1時間40分
口永良部島⇄屋久島(永田港)
海上タクシー 40分

鹿児島市⇄屋久島(宮之浦港):ジェットfoil 約2時間(直行)
フェリー 約4時間
鹿児島空港(霧島市)⇄屋久島空港:航空機 約35分

屋久島の自慢

- 世界自然遺産
1993年島の面積の約21%が世界自然遺産に登録された。
(世界遺産登録は姫路城・法隆寺・白神山地とともに日本初)
- 国立公園
屋久島、口永良部島ともに霧島屋久国立公園の一部を成す。
- ラムサール条約
2005年11月屋久島永田浜(いなか浜、前浜)が登録。



● ● ● | 屋久島の自然



縄文杉



白谷雲水峡
花崗岩の上に苔が這い、照葉樹林や屋久杉の原生林が広がる美しい森。
映画「もののけ姫」の舞台のモデルとなったことでも有名。



雨の島

- 林芙美子が小説「浮雲」で月に35日雨の降るところと記したように、屋久島は非常に降雨量が多い。
- 1999年の全国主要観測地点154カ所の内、屋久島が**最多の降雨量**となり、年間降水量が***6294.5mm**を記録。
(過去最多の6174.5mm(1954年三重県尾鷲)を抜く記録)
- 季節的には春先から梅雨にかけての降雨は多く、夏や秋は台風が来なければ比較的降雨量も少なくなるが、1mm以上の降水がある日数は**低地で年間170日**もあり、およそ2日に1度は雨が降ることになる。

屋久島の医療環境



問題点

特老やグループホーム等の介護施設の不足。人材不足。老老介護の状態。
診療所医師の高齢化(私を除く島内診療所医師6名の平均年齢61歳)、後継者問題。

永田へき地出張診療所

- 日常業務: 内科を中心とするプライマリーケア、在宅診療。無床診療所。
 - 学校医業務: 永田小中学校、金岳小中学校の4校
 - 乳幼児健診・予防接種、健康講演会
 - 介護保険審査会審査員
 - 障害者自立支援法に基づく審査会委員
 - 地域医療対策協議会委員 etc...
- (何か会議があれば委員にされてしまう !!)

職員 医師1名
看護師3名(2名ずつの交代勤務)
事務職員2名(1名は非常勤)

自治医大医師は平成3年から派遣されており
現在8代目。

その他、専門外来として鹿児島大学医局から
眼科・皮膚科の医師を2日/月派遣して頂いて
いる。



看護師は交代勤務のため通常は医師1名
看護師2名、事務1名

● ● ● | 永田へき地出張診療所



処置室兼検査室



会計窓口



薬品棚(看護師が分包中)



待合室

永田へき地出張診療所

- 1日平均患者数:内科外来22名(平成18年度)
救急:平成18年度はへり搬送なし
骨盤骨折2名、脳梗塞1名、急性薬物中毒1名は島内病院へ救急搬送
 - 医療機器
心電計(Holter機能付),上部消化管内視鏡,エコー(腹部,心臓,表在),
除細動器,血球測定器,遠心分離機(生化学検査は航空機で鹿児島市
内の検査センターに提出),単純レントゲン撮影機(CR,透視は不可能),
顕微鏡,スリットランプ
- 看護師3名とともに、平成19年 日本救急医学会ICLS(Immediate Cardiac Life Support)コース受講済み。さらに全員孫あり。

口永良部へき地出張診療所



海上タクシーで島間を移動

医師：非常勤、2回／月の巡回診療
看護師：1名常勤
設備：血圧計、携帯型超音波診断装置、心電図
パルスオキシメータ(レントゲン設備なし)、無床
緊急時は海上タクシーで屋久島へ搬送するか、ヘリコプターで鹿児島市内の病院に搬送となるが、天候によってはどちらも不可能となりうる。



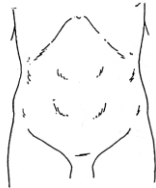
口永良部島ヘリポート

口永良部島診療の問題点

- 巡回診療以外の時は、直接の診察でなく、看護師からの報告およびデジカメ画像のみでの判断に頼らざるを得ないため、状況によっては非常に危険。
- 口永良部島単独の常駐医が滞在したこともあるが、なかなか長続きしない。前任者は東京から赴任されたが、実際は平成18年11月～平成19年3月までと非常に短期間で辞した。
- 口之永良部島に常駐した場合、患者数は高々3-4人/日となり、モチベーションの維持が困難。日々の生活を送るだけでも様々なストレスがかかる。
- 医療機器が不十分な中での不安。レントゲン設備すらない。いざ、緊急対応が必要な際には搬送するしかないというジレンマ。

口永良部島で患者が発生した場合

下記の報告書式で永田診療所にFAXおよび電話で報告。肉眼所見が重要な皮疹・外傷等は電子メールで画像情報も送付する。

患者状態報告書		平成 年 月 日	
患者氏名(ふりがな)		性別(男・女)	
生年月日(大正・昭和・平成)	年 月 日 年齢 歳		
小児では必ず体重も	kg		
血圧 / mmHg, 脈拍 /分 不整(有・無)			
意識レベル(1桁, 2桁, 3桁), 体温 °C 呼吸回数 /分, SpO2 %			
意識レベル: 1桁: 自発開眼 2桁: 刺激を与えないと閉眼する 3桁: 刺激を与えても閉眼しない			
主訴 腹痛 胸痛 頭痛 感冒様症状 その他 (具体的に)			
発症形式: 突然(何時何分からと分かるほど)、数時間前から(例 今日朝から)、日・月前から、時々			
変化: 悪化傾向 改善傾向 不変			
現病歴・症状の経過			
			
その他の注意すべき症状			
既往歴・入院歴			
薬物アレルギー(有・無) あれば薬剤名 体質: アレルギー(), 気管支喘息、その他()			
現在服用中の薬			
診療所からの処方薬			
他院からの処方薬			
※必ずチェックしてください			
緊急度 <input type="checkbox"/> ①大至急(生命の危機・急変の可能性)			
<input type="checkbox"/> ②10~15分程度待てる状態(非緊急状態)			
<input type="checkbox"/> ③時間のできた時でOK(当日中で可)			
多くの場合永田診療所でも患者さんを待たせていますので、一般に同様の待ち時間を要すると思われ ます			
※ この報告書は、FAXした後に必ずカルテに貼り付けておいてください。			



4日前に釘を踏んだ症例
(電子メール報告)

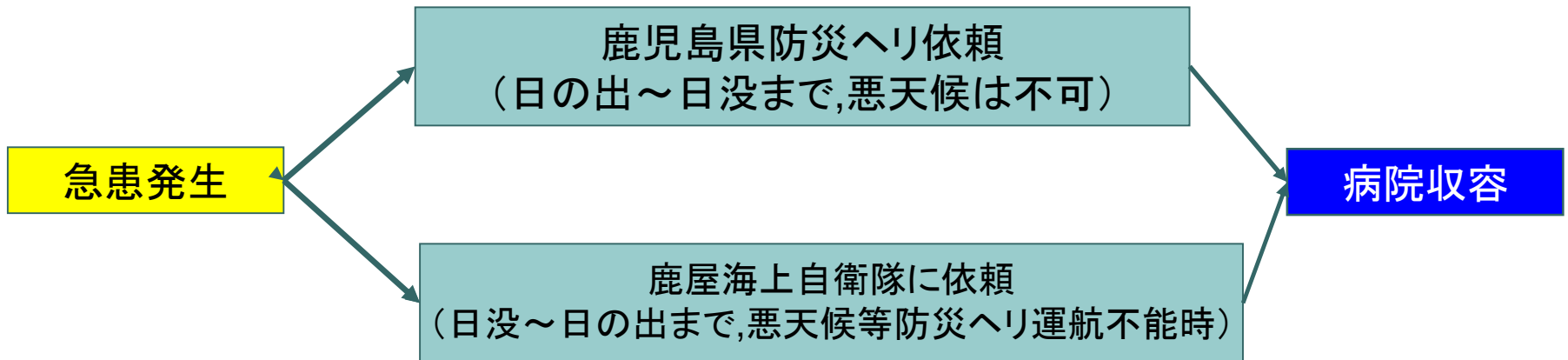
平成18年度口永良部島からの緊急搬送
へり搬送なし
海上タクシー搬送1例
63歳男性 急性尿閉の症例のみ

へり搬送

- 島内での治療対応が不可能な疾患、緊急の専門治療・管理が必要な状態。

永田診療所 平成17年 急性心筋梗塞1例(鹿児島市へ)
平成18年 実績なし

平成16年度 屋久島全体のへり搬送 14 件(県比 10.8%)
鹿児島県全体のへり搬送 129 件(全国比5.5%)
日本全国のへり搬送総数 2356 件



永田地区の生活

- 診療所の後方には九州第2位の高峰永田岳がそびえ、冬には冠雪する。
- 島内である程度の用事は済ますことができる（銀行やスーパーマーケットもあるが、車で40分程度かかる）
- 朝刊は夕方届く
- 島の中心街にはADSLが届いているが、永田のインターネット環境はISDN。
- 3年後には、現上屋久町内の中学校は統合され、永田中学校は廃校。バスで40分かけて通学することになる。
- テレビは、地区の受信組合に加入し、集合アンテナに接続することにより受信できるようになる。
- 海・山・川はすごく近いが、街は遠い。
- ついつい、医師住宅の庭で野菜を育ててしまう。庭をカニが潤歩する。



永田岳



屋久ザル・屋久シカ

『ヒト2万(人)、サル2万(匹)、シカ2万(頭)』とかつて呼ばれていたらしくサル、シカは県道沿いで日常的に見かけるが、ヒトもサルもシカもそこまでは多くないとのこと。

(ヒト 1万5000弱、サル、シカは各々3000頭程度と考えられている。)

運転時には、ヒトよりサル、シカを轢いてしまう可能性が高く注意が必要。(過去1年間に診療所の医師、事務長ともに別々にシカとの事故を経験している)



サルもシカも、比較的小柄な個体が多く、屋久ザルは日光のサルほど人間に慣れていない。

カメ

- 世界的に有名なウミガメ産卵地
(北半球で最大のウミガメ産卵地であるらしい)
2005年には延べ3600頭のウミガメ(アカウミガメ、アオウミガメ)が上陸し1900回の産卵が確認されている。

6月中は、夜間浜に行けばほぼ必ず産卵が見られるほど。

夜間の永田地区主催のウミガメ観察会には、有名人の姿もチラホラと。

産卵中はフラッシュ撮影禁止のため残念ながら写真なし。

カメ産卵地の砂浜で豪快に砂遊びする我が子ら

● ● ● | エラブオオコウモリ(*P.d.dasymallus*)



鹿児島県の口永良部島とトカラ列島に分布 口永良部島は世界のオオコウモリの北限。

屋久島には、九州最高峰の宮之浦岳(1935m)をはじめ標高1000mを超す山々が多く、(九州の高峰の上位7位までが屋久島に集中)、「洋上のアルプス」とも呼ばれてる。この地形がおりなす気候には、垂直方向に亜熱帯から亜寒帯までが含まれ、九州から北海道までの気候が一つの島で見られるということになる。島の90%を占める森や特異な生態系に1500種、日本の植物種の7割以上の植物種がひしめきあい、さらに世界で屋久島だけに自生する固有種の植物が約40種存在する。

(*日本で2番目に固有種の多い八丈島は8種)